

「親子会」を支える仕組み作り

～町会がNPOと連携するには～

—羽黒台町会(柏中央地域)の取組み—

1 親子会の消滅危機から

2年ほど前に、羽黒台町会の親子会は一度消滅の危機を迎えた、とお聞きしました。それを機に、親子会を町会組織の中に入れて、町会全体として親子会を支える、親子会活動は無理をせず、やりたいこと、やれることを中心に活動して行く、という大枠が出来た、ということでした。

今回町会行事として行った「芋掘り収穫祭」では、親子会の役員のママ4人を中心として、町会のバックアップのもとで、子どもを元気にする支援活動を行うNPOとの連携を試みました。

2 町会（地縁組織）がNPO（志縁組織）と連携すると…

～無理をせず、やりたいこと、やれることをやっていく～

芋掘り収穫祭当日の朝。町会で借りている畑で、まず芋を収穫。その芋を羽黒台コミュニティ会館前の駐車スペースに運ぶと、子どもたちは次々にぬれた新聞紙とアルミホイルに薩摩芋を包み、町会役員の方々はドラム缶を利用した町会特製の大型焼芋器を使ってその芋をどんどん焼いていきました。昨年度初めて取組んで好評を得た芋掘り収穫祭ですが、課題は焼き上がるまでにいさ



さか時間がかかること。小さな子どもたちには長～いお預け、になります。

焼き上がるまでの小一時間に、なにが子どもたち向けのイベントができないか。

町会副会長の土岐さんは、今後のことも考えると、低報酬で地元の、今後も継続的に付き合いできる団体に依頼するのが良い、と考えて親子会のママさん達に相談し、合わせて地域づくりコーディネーターにも打診、コーディネーターから紹介された市内で活動しているNPOこどもすぺーす柏の理事長・事務局長とママさん達の出会いの場をセッティングしました。

間に町会の役員、柏市役所の地域づくりコーディネーターが入ることで、結果的には親子会のママ達とNPOの間がスムーズにつながり、会場の下見を兼ねてさらにもう一度打合せをした後は直接当日を迎えましたが、ママ達に大きな不安はなかったそうです。一方、NPOこどもすぺーす

柏にとっても、地域とつながりが出来、企画していたキャンプへの参加が増えるなど副次的な良い効果があったと聞きました。

土岐副会長は言います。

「これからは、町会運営にも外部の力を積極的に借りた方がいいんじゃないかな」「我々だけでやろうとしても、限界があるし、発想も広がらないよ」

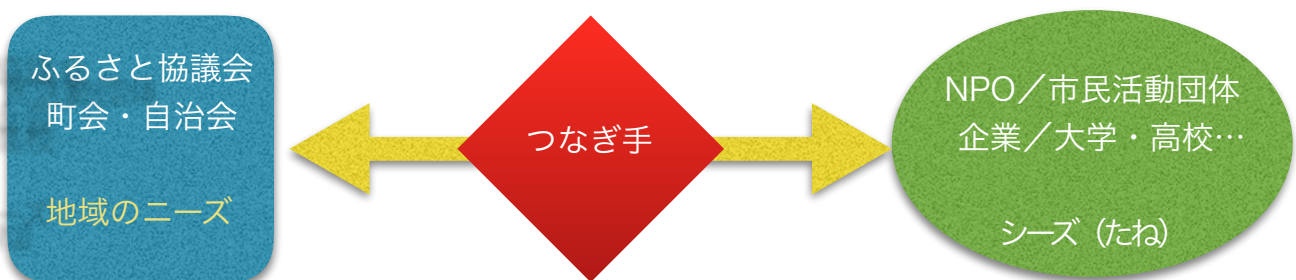


もちろん、地域のニーズを、NPOに限らず、外部の団体につなげていく、というのは口で言うほど簡単ではないかもしれません。おそらく、中間に入り、両者に適切な情報提供をし、安心安全につなぐ「つなぎ手」の存在が必要になるのではないかと思います。その潜在的なニーズは今後広がって行くかもしれません。しかし、今はそのニーズに十分に答えるような人も仕組みもないのが現状のようです。

今回は、たまたま地域支援課の地域づくりコーディネーターがその役割の一部を担う形になりましたが、このニーズを満たす体制や仕組みは、これからの課題になるのかもしれない。

また、これを地域の活動をアウトソーシングする仕組みと捉えようとすると、注意点も出てきそうです。住民の生活の場である町会や自治会の活動を、安易なアウトソーシングで解決しようと考え始めるならば、様々な問題も生じてくる可能性は考えられるでしょう。

町会や自治会の住民自治を基本としつつ、近年顕著になってきた少子高齢化や後継者不足を始めとする地縁組織の運営の困難に対応するためのひとつの選択肢として検討する慎重さもまた必要なのかも知れません。



【本事例関係団体等】

*お問合せ等の了解は得ておりますので、関心をお持ちの方は直接お問い合わせ下さい。

■ 柏中央地域ふるさと協議会・羽黒台町会

副会長・土岐守 kao_170402@docomo.ne.jp

■ NPOこどもすぺーす柏

事務局長・原田圭子 info.kodomospace@gmail.com